

学校自己評価システム取組状況調査報告書

平成27年度

県立学校評価委員会

学校名	埼玉県立鴻巣高等学校		Aグループ
項目	調査の観点	取組状況に関する所見	
目指す学校像	目指す学校像は、学校の現状、課題等を踏まえて設定されているか。	学校の置かれた状況や生徒の実態を把握し、前年度までの指導の成果を踏まえて今年度見直しが図られている。平成30年度に迎える創立100周年という大きな節目を機に、生徒・保護者・地域などの期待を把握・分析しながら新たなステージを見据えた学校像の設定に向け検討を重ねていただきたい。	
重点目標	学校が抱える課題の解決に向け、児童生徒の実態など学校の状況を踏まえて、目標の重点化が図られているか。	前年度と比べて重点化が図られ、学力向上や進路実現など学校が目指すところが示されている。やや網羅的で現状追認型の目標となっており、生徒の変容・成長に着目した目標を設定するなど中期的な視点で更に重点化することが望まれる。	
重点目標達成への取組	重点目標の達成に向けた組織体制が整備され、適切に機能しているか。	学校評価懇話会で建設的な意見を引き出し、重点目標の達成に向けて必要な評価項目が挙げられている。分掌・学年間の連携をより一層図るとともに、分掌・学年等の「年間総括」を学校自己評価システムに有機的に結び付けて、より具体的な評価項目や方策について検討・策定する体制を整備し、教職員全体の参画を促していただきたい。	
	方策は適切に策定され、効果的に実施されているか。	評価運営委員会で方策を策定し、課題の解決のために取り組んでいる。生徒指導の充実により遅刻者数が減少し、規律意識が高まるなど具体的な成果が上がっている。方策の評価指標が抽象的であるので、評価項目の達成度を決定する上で、より判断しやすく、生徒の変容にも着目した指標となるよう検討し、方策を計画的に実施することが望まれる。	
	校長の的確なリーダーシップの下、教職員が共通理解を深めながら組織的に取り組んでいるか。	評価運営委員会、職員会議において、校長をはじめ管理職が学校の課題等に関する教職員の共通理解を図っている。組織力を高めるために教職員一人一人を的確に生かすとともに、更に共通理解を深め、目標の達成を目指すことが期待される。	
	学校関係者評価等を踏まえて、達成状況や課題を検証し、取組の改善・更新が行われているか。	アンケートなどを実施し学校自己評価のための情報が収集されている。学校評価懇話会で出された意見等を学校全体で共有し、学校関係者の意見やアンケート結果等を詳細に分析することで、新たな課題の析出や方策の見直しを検討するなど、次年度のより具体的な取組につなげ、スパイラルアップを図るようにしていただきたい。	
特記事項			